

相談支援つうしん

<第 86 号>2023 年 2 月 1 日
県立湘南養護学校 支援連携部
相談支援係～教師用～

今回の「相談支援つうしん」は、私の受講した研修の内容から報告します。基本的な内容にはなりますが、ご一読していただけたら幸いです。

<児童・生徒理解と個に応じた支援>

児童・生徒の困難さの要因は一人ひとり異なります。例えば、聞こえにくさ、記憶の弱さ、聴覚情報の処理の弱さ、抽象的な言葉の理解の難しさなどです。様々な要因を考え、一人ひとりに応じた指導・支援をすることが大切です。困難さの要因を探り、環境を整え、得意な情報処理の方法を把握するための3つの視点から支援を考えていきます。

①提示・表示の工夫

視覚情報は消えることはないの、見直しや確認が可能です。完成形や終了が明確であれば、ゴールが分かりやすくなり見通しを持つことができます。何より長い説明が不要なのが最大のメリットです。聞くことが苦手な児童・生徒は理解しやすいでしょう。

手順表や完成見本の提示、図や表の活用など、一度に提示する情報量を調整し、児童・生徒の特性に応じて提示の仕方を工夫することも大切です。

②指示・説明の工夫

視覚情報とは違い、児童・生徒の反応により調整が可能です。伝え方や情報の量を調整しやすいのが利点です。また、多くの児童・生徒が一度に共通理解を図ることもできます。その際に、言葉選びや指示の長さの調節、焦点化の工夫をすることが必要です。

③構造化の工夫

構造化には、主に時間の構造化・物理的構造化・活動の構造化があります。時間の構造化とは、毎日のスケジュールを提示、タイマーの活用などがあげられます。物理的構造化とは、授業によって机の配置を変え、学習内容と一致させることです。活動の構造化とは、内容表・作業手順表の提示などがあげられます。

児童・生徒の実態に応じて構造化の方法を工夫することが大切です。最後になりますが、なるほど！と思った6つの「みる」を紹介します。

- 「見る」・・・視覚的にみる
- 「覧る」・・・全体を一望するようにみる
- 「観る」・・・観察するようにみる
- 「視る」・・・視点を絞ってみる
- 「看る」・・・気を配る
- 「診る」・・・健康の状態をみる